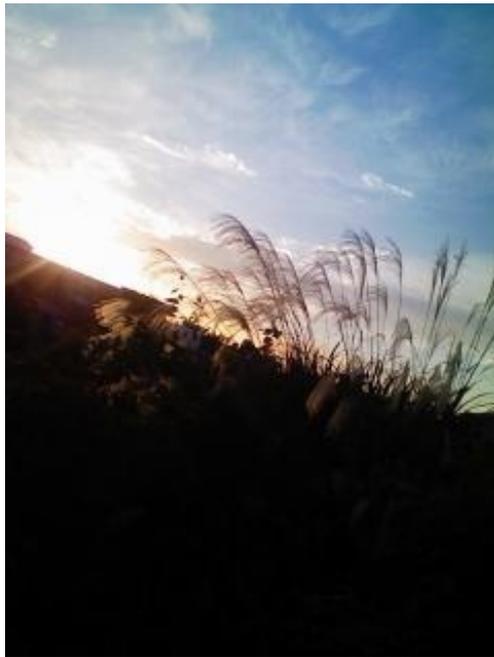




かぜおと。



風はこんできた小さな声。

すごくすごく小さくて 耳からこぼれてしまいそう…

あんなに好きだった君の声。

何よりも

1番に

耳に届いていたのにね…。



灯されたあかりが
僕のある場所への案内人

ほら 君の笑顔が待っている。

こうさくのじかん。



僕たちはいつだってカタチの違うパズルの嵌(は)めあっこ。

そうやって お互いのピースを重ねて生まれてきたカタチ

大切に積み上げた時間といっしょに
大切にしていこうよ。



こんなに辛い別れがあるなんて知らなかったんだ。

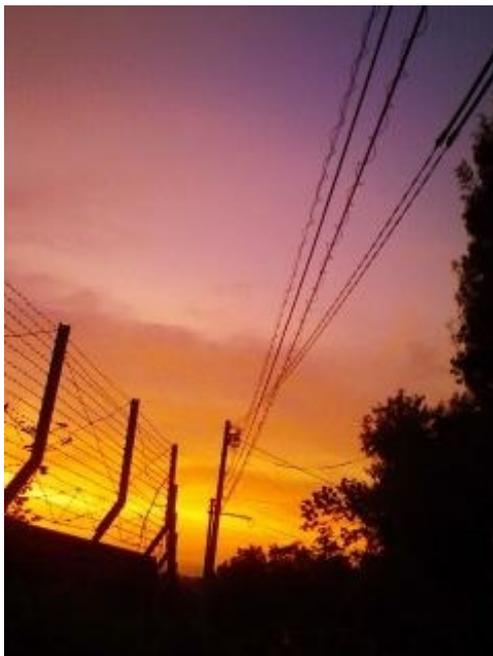
だって

君はいつだって僕のそばにいてくれた。
いつだって僕のがまを静かに聞いてくれていた。

今でも消化できない別れ。

ねえ 何時になったら僕の時計は進むの？

眠りから覚めた僕は。



眠りの唱(うた)が やさしく響く世界

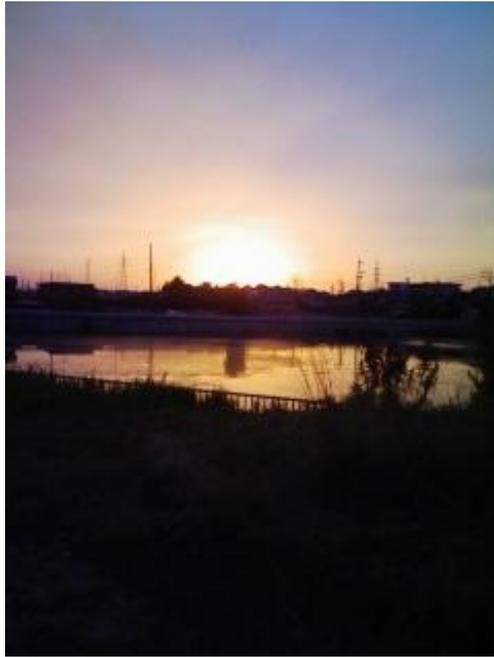
そんな世界で ずっとずっと眠り続けた。

目覚めた時、君の姿はもうなくて

新しい僕の世界が始まった。

この手に残った小さな地図を頼りに

僕も 旅立とうか。



真っ白な未来に広がった僕らの色(みらい)

ひとつ ひとつ と色を重ねて

ひとつ ひとつ が形を創って

すべてがキラキラと輝いてた。

何時か見たあの日の理想(ゆめ)は・・・



ちいさな ちいさな 君の声。

僕の心のいちばん奥で

いまでも 大きく響いてる。

ほら 今も

目を閉じれば 君が・・・・。



まるで 雑音のような"声の嵐(おんがく)"

耳の中で反芻する奏。

凍りついた時間の中で

僕は この街の中を進んでゆく・・・

もう 何も聞こえないこの耳に

たった1つ残る 君の声は——・・・。



「また 明日ね。」

そう言って終わる 僕らの毎日。

ささやかな再会の約束。

僕らの心に灯る ほんの小さな気持ち。

この灯(つ)を 大切に、大切に・・・。



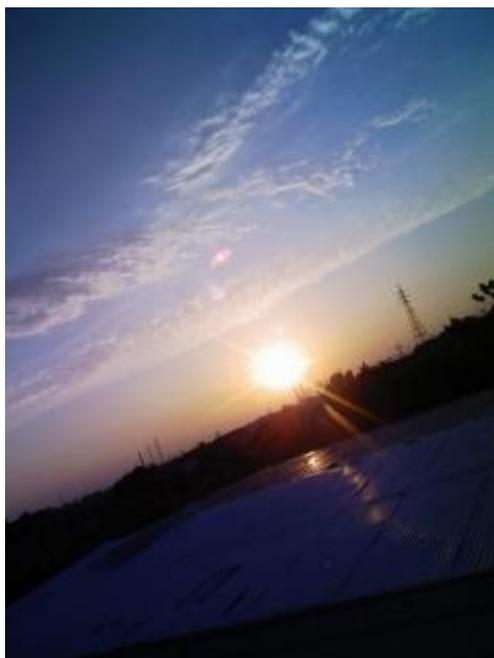
風が吹いて
木の間から差し込む光を浴びながら
僕は小さく伸びをする。

となりには 君がいて…。

なんて贅沢な時間。

2人だけの時間の中で
僕は 僕だけの夢を見る。

歩き出すのは もうちょっと休んでから。



変わらないモノを信じたくて
君との繋がりを必死に守った。

ねえ・・・
2人の関係は
永遠だと信じていいのかな？



この道の先
辿り着く結末を 今はまだ知らない。

願わくば、
幸福な結末へとつながっています様に・・・。

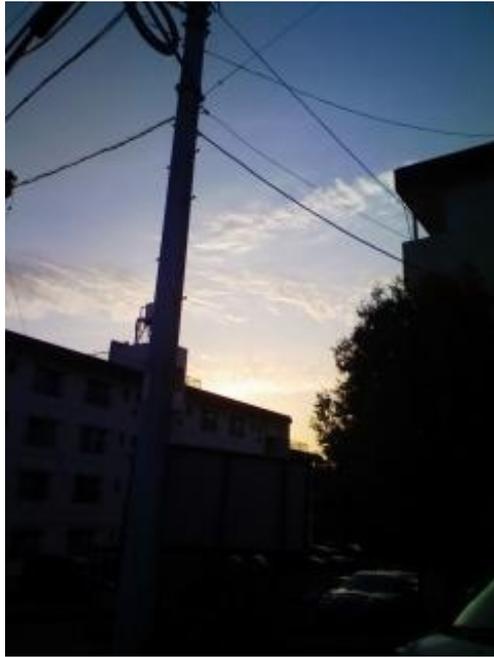


一緒にすごすこと・・・
お互いが 息苦しさばかり感じてしまって・・・
それでも 離れられなくて

気づけなかった。

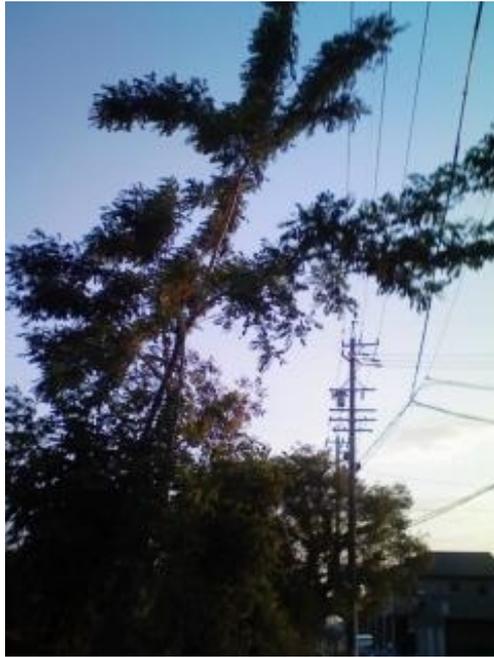
2人の辿り着こうとしていた“結末”に。

欲ばりな僕。



君の優しさが胸に染みて
君の存在が癒しになった。

ずっと ずっと
手離せなくなった・・・。



高い 高い プライドがあって
素直な感情の邪魔をする。

本当は すごくシンプルな気持ち・・・。

本当は すごく真っ直ぐな願い・・・。

前に進む。



いっぱい いっぱい
涙流して

いっぱい いっぱい
笑いたい。

"後悔"じゃなくて "糧"にしたから・・・。



独りたらずむ町並みは
まるで不良品のパズルみたいに
どこか模造品(つくりもの)めいたセカイ

風と光のカタチも
なんだか歪んで曖昧なんだ

置き去りの気持ちも彷徨いも
今はもう分からないよ
目印の記憶も 手のひらすり抜けて・・・
地図は見付からない。

約束の場所へ・・・
いつしか君に再会(であえ)ると信じて
僕は 今日も旅立つ
たとえ それが終わらない旅路だったとしても・・・



迷い続けた道の先
僕の目指した未来がある。

信じたい。
それが 幸福につながる道だと・・・。



大切なモノほど見えなくて
“繋がり”の存在に不安になる。

信じ続けるチカラ

守り続けるチカラ

いつでも 心に 光を灯して・・・。



理解して(わかって)もらえないことが
とにかく悔しかった・・・。

いっぱい いっぱい
足掻いてみても
結局は1人の気持ちなんだと思った。

この気持ち
枯れてゆくのか？ それとも・・・



優しい世界に包まれて

今日も
僕は 眠りにつくよ・・・。

今日の言葉を明日君に・・・



自分よりも誰かを想って・・・

自分よりも誰かの為に・・・

そんな真っ白で純粋な感情が
いつまでも 心に灯ってるんだ・・・。



いつか 君の心は洗われるだろうか。

いつか 僕の存在とともに・・・

僕の ココロ

君の ココロ

真っ白なココロに生まれ変われたら

また

君との再会を 望めるだろうか・・・。



どんな永遠(ながい時間)よりも

ほんの一瞬の "今"という時間

僕にとって その存在は大きくて

何にも変えられない。

もう離さない。

離したくないんだ。。



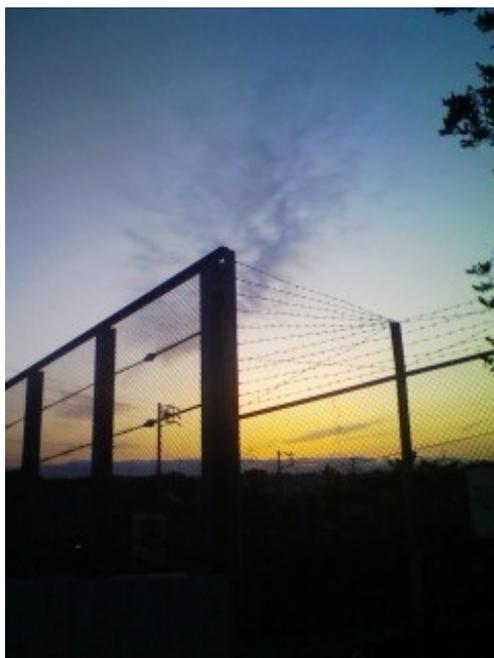
わすれないで。

ぼくが ずっと そばにいる。

ぼくが ずっと まもるから。

そんな 小さな約束が

僕らの未来になってゆくよ・・・。



1つ1つを重ね、つないで
たった1つの言ノ葉を創る。

大切に 大切に

慎重に 慎重に

そうやって生まれた言ノ葉は
届くべき元(ばしょ)へはこばれてゆくんだ…。

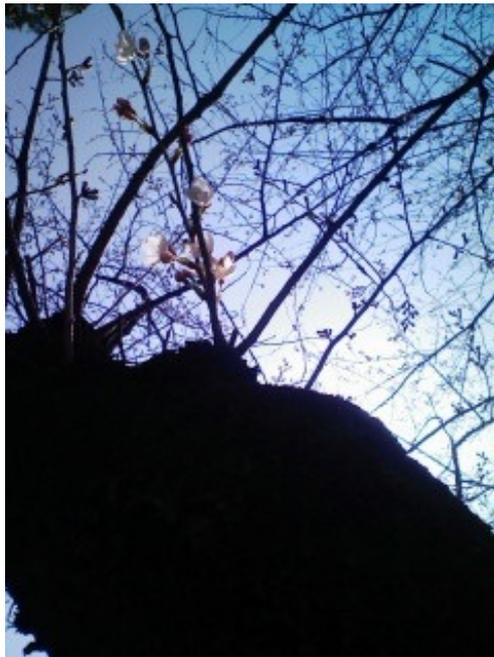


自分を偽ってもなお 真実(ほんとう)は在って。

そんな ほんのちょっとした隙間を
君は見つけてしまうから。。

偽ることに疲れた僕は癒されて。。

偽る顔を見られたくない僕は苦しんでしまうんだ。。



あたたかな空気の中
“君”と歩いた並木道。

いつしか 桜もキレイに咲いて..
また 季節が巡ってく。

どうか この季節より先も

僕のトナリに君がいてくれます様に..。



夢のつまったこの手に

道を造り出すこの足に

沢山 沢山の希望が在る。



君の生み出した奏は
やがて 誰かの元で音色になる。

その音色は 新たな奏を生んで
また 誰かの元へと向かうんだ。。

“永遠”という、優しい輪廻。